

2019年度(令和元年度)

人権尊重をめざす人権作品紹介

人権作品 詩部門 《入選者》

野洲小1年 西村 白櫻里

北野小5年 吉川 心音

中主小6年 鶴飼 良慶

中主中1年 岡田 有加

篠原小2年 山田 潤弥

中主小5年 河瀬 真奈

三上小6年 荒川 和葉

中主小3年 田中 杏菜

野洲小5年 秋岡 杏奈

中主中1年 和井田 朋香

ぽかぽか言葉

中主小学校3年 田中 杏菜

「ありがとう」と言われると
うれしい。
「大じょうぶ」と言われると
力強い。
「しーらない」と言われると
かなしい。
「きれい」と言われると
きずつく。
ポカポカ言葉を言うと
言われた人がうれしい、力強い。
チクチク言葉を言うと
言われた人がかなしい、きずつく。
だからチクチク言葉を
言ってはいけない。
だからポカポカ言葉を
もっともっとふやそう。
ポカポカ言葉で世界を
いっぱいにしてよう。

人色

中主中学校1年 和井田 朋香

人は色を持っている
その色は薄かったり 濃かったり
濁っていたり 透き通っていたり
明るかったり 暗かったり

たまに合わない色があるかもしれない
けどそれを口にしてしまうと
相手は傷ついてしまう
色が変わってしまうかもしれない



そうならないように、そうしてしまわないように
自分の色と相手の色を
少しずつでもいいから混ぜ合わせて
世界でたくさんの色をつくろう

そうして自分のパレットがいっぱいになったら
とっても素敵な絵がかけるだろう

ちゆうずしやう ねん
 中主小1年

ほりえ みゆ
 堀江 美結

やししやう ねん
 野洲小2年

おかだ しずく
 岡田 雫

やししやう ねん
 野洲小4年

いわき うた
 岩木 詠

みかみしやう ねん
 三上小5年

みやぎ みつき
 宮城 光希

きたのしやう ねん
 北野小6年

さとう ちい
 佐藤 知泉

ぎおうしやう ねん
 祇王小6年

よしだ あかね
 吉田 茜音

しのはらしやう ねん
 篠原小6年

すずむら やまと
 鈴村 大翔

やしきたちゆう ねん
 野洲北中2年

たにぐち まなか
 谷口 愛香

やしきたちゆう ねん
 野洲北中2年

やべ かん
 矢部 幹

やしきたちゆう ねん
 野洲北中2年

うえだ まこ
 上田 真瑚

わたし じんけん
私と人権

きたのしやうがっこう ねん さとう ちい
 北野小学校6年 佐藤 知泉

私は、学校の道徳の授業で人権についてクラスで学びました。私は人権とは、「幸せに生きること」だと思っていました。実際に友達の意見を聞くと、私とはちがうたくさんの人権の意味が分かってきました。その意見は、「世界の人々が持っている、生きる権利」と言っていました。他には、学校に通う権利、楽しく生きる権利、大人になって就職すること、ちゃんと生活が出来ること、などの意見がありました。私は、それらの意見をまとめてみて、人権は、家族や友達、みんなから、「大切にされる権利」なのではないかな、と思うようになりました。私は前、お父さんから聞いたお話ですが、お父さんが静岡に出張に行った時、新幹線で行ったそうです。座っていた席は、予約席で、その車両は、満員で、自由席も空いていませんでした。しばらく乗っていると、おばあさんが乗ってきました。やっぱりまだ満員で、だれも席をゆずってあげようとしま

せんでした。でも、私のお父さんは、その様子を見てスッと席を立ち、「こここの席どうぞ。」と言って、ゆずってあげたそうです。おばあさんは、「ありがとう。」とうれしそうになっこり笑顔で言いました。私は、このお話を聞いて、心がポカポカになりました。私の学校では、毎月25日に、人権の学習があります。世界の人々のこと、世界の国々の文化などを習います。これからも、学校や家、インターネットなどで、もっとくわしく人権のことについてたくさん学び、まわりの人達を大切にしていき、私も体の不自由な人や、おじいさんやおばあさんがいたら、電車、バスなどでゆずってあげようと思い、人権を大切にしていきたいと思いました。

ちが
違い

やしきたちゆうがっこう ねん やべ かん
 野洲北中学校2年 矢部 幹

障害。これは、ただの違いであると僕は考えている。人と人が「違い」をもっているのは当たり前である。この違いを差別するのはおかしいと思う。僕の姉は障害者。難しいことはあまりでき

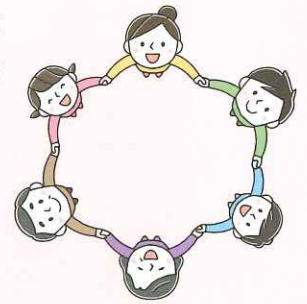
ないけど同じ人間。なのに、これを否定し差別するのはおかしいと思う。身近に障害者があるので僕も昔は「なんでお姉ちゃんはみんなと違うのだろう」と疑問に思っていました。けど、よく考えると障害というのは、本人が好

きでもっているわけでも、なりたくて障害者になっているのではないということに僕は気付いた。また、姉にあやまらなければならぬことがある。それは、姉に偏見を持っていたことである。小さい頃から姉がみんなと少し違う姉のことを隠していました。それはなぜか。障害者に偏見をもち自分の姉が障害者であることを周りに知られると自分がいじめられるのではないかと考えていたからである。姉も誰も悪くないのに偏見を持っていたことは間違いだと申し訳なく思っている。

僕たちよりも努力して必死になって生きている人がいるのに否定する人がいる社会はなくすべきだと思います。違いが少し多かったり、不自由な部分があるだけで同じ人間だから。僕は以前にこのような動画を見ました。障害者である田久保妙さんのドキュメントである「お母さん、もうすぐいなくなるよ～ダウン症、愛する娘へ～」という動画である。田久

保さんは絵を描くのが得意ですが話をするのは少し苦手である。苦手な部分をカバーしてくれる母はがんになり他界するが田久保さんは今でも一人で仕事へ行き働いている。月に9万円しかもらえないのに自立し、しっかりと生きている。もし、僕が障害者だとしたら片道一時間もかけ仕事へ行けないと思う。ですがこのように頑張っている人がいる。そんな努力も知らずに簡単に否定しいじめている。本当に許せないです。

だが、確かに障害者には、不自由な部分は多々ある。だから、小さなことでもいいからみんなが笑顔でサポートしてあげる必要があると思う。障害者の人たちは僕たちと少し違うだけ。生きる権利もしっかりとある。そんな障害者への差別がなくなりみんなが平等にそして笑顔で過ごせる社会がくることを僕は祈っています。



じんけん さくひん ひょうご ぶもん
人権作品 標語部門 《入選者》

ともだちも じぶんも大すき ありがとう

あいさつは 友だちへの だいーぼ

言わないよ 自分が言われて いやなこと

たすけてくれて ありがとう 言われてうれしい すてきなことば

守ろうね 命となかま 大切に

あいさつは みんなの笑顔の エネルギー

同じだよ いじめるのも 見るのも その行動が さみしいな

やめとけよ 少しの勇気が 皆救う

見て見ぬふり それも1つの いじめだよ

伝えない いじめや差別 未来へと

しのはらしょうがっこう ねん み きき えい た
篠原小学校 1年 三崎 瑛太

きたのしょうがっこう ねん ふる たに ゆう と
北野小学校 2年 古谷 悠人

ぎおしょうがっこう ねん なか しま しゅん
祇王小学校 3年 中嶋 瞬

しのはらしょうがっこう ねん か がわ さとる
篠原小学校 3年 加川 悟

みかみしょうがっこう ねん ふじ わら
三上小学校 4年 藤原 りあ

やしゅうがっこう ねん おお や はる か
野洲小学校 4年 大矢 春花

ちゅうずしゅうがっこう ねん お がわ たま き
中主小学校 6年 小川 瑤希

ちゅうずちゅうがっこう ねん いわ せ しん せい
中主中学校 1年 岩瀬 真成

やしきたちゅうがっこう ねん いな き あや み
野洲北中学校 2年 稲木 彩実

やしちゅうがっこう ねん はら やま
野洲中学校 3年 原山 くるみ

じん けん さく ひん
人権作品 ポスター部門

にゅうせんしゃ
《入選者》



きたのしょうがっこう 1年 なかじま ろく
北野小学校 1年 中島 禄



ちゅうすしょうがっこう 2年 なかい りの
中主小学校 2年 中井 梨乃



みかみしょうがっこう 3年 たかへい じゆの
三上小学校 3年 高幣 樹乃



やししょうがっこう 3年 やまがみ まりん
野洲小学校 3年 山上 真凜



ぎおうしょうがっこう 4年 あさかわ はるひ
祇王小学校 4年 浅川 遥陽



しのはらしょうがっこう 5年 さるわたり はるか
篠原小学校 5年 猿渡 遥栞



やししょうがっこう 6年 まさもと まい
野洲小学校 6年 政本 舞



ちゅうすちゅうがっこう 1年 よしかわ みお
中主中学校 1年 吉川 瑞音



やしきたちゅうがっこう 2年 たなか あんな
野洲北中学校 2年 田中 杏奈